

令和5年度第1回古賀市公民館運営審議会会議録

【名称】 令和5年度第1回古賀市公民館運営審議会

【日時】 令和5年4月20日(木) 19時～20時10分

【場所】 リーパスプラザこが交流館 302 洋室

【出席者】

公民館運営審議会委員

末次威生会長、吉田義徳副会長、

富山巽委員、梯裕子委員、山本節子委員、樋口律子委員、

清水佳香委員、檜山みどり委員、松本孝之委員

事務局

教育部長 横田浩一、生涯学習推進課長 樋口武史、公民館長 清水万里子

公民館係長 的野いと、社会教育振興係 白川健太、公民館係 栞里梨加

【傍聴者数】 0名

【内容】

1. 開会のことば

公民館長 清水が開会のことばを述べる

2. 教育委員会あいさつ

教育部長 横田があいさつ

3. 委嘱

教育部長 横田から各委員に委嘱書の交付

4. 委員自己紹介

事務局自己紹介

5. 会長・副会長の選任

全員一致で会長に末次威生委員が、副会長に吉田義徳委員が選任される。

以降の議事進行は末次会長が行う。

6. 付議事項

(1)リーパスプラザこが施設利用状況について

〔事務局説明〕別紙2のとおり

〔委員からの意見等〕

(委員)別紙2の3の施設の利用者数について、つながりひろばの利用者数は含まれているか。

(事務局)貸館のみの利用を集計しているため、含まれていない。

(委員)なぜか。つながりひろばでは利用者の集計をしている。

(事務局)利用団体から部屋の予約を受ける際に利用者数をシステム上で集計をしている。次回集計以降つながりひろばの利用者も含めたい。

(2) 公民館系の事業について

[事務局説明]別紙3・別紙4・別紙5のとおり

[委員からの意見等]

(委員)分館教養学級について23学級との記載があるが、コロナ禍から増えているのか。

(事務局)コロナ禍において休止する学級はあったが、辞めた学級は聞いていない。コロナの影響ではなく、高齢者学級は減る一方であり、分館教養学級のそのもののあり方や支援のあり方を検討していきたい。

(委員)分館教養学級はいくつの行政区があるのか。

(事務局)17自治会となっている。

(委員)全部で46自治会のため、半分以下となる。市の支援の実績はあるのか。

(事務局)視察研修について、市の事業と位置付けられるものに限り、市の庁用バスの貸出を行っている。市の職員も随行し、交流を深め情報収集や、リーパスカレッジの紹介等を行っている。

(委員)市が直接分館活動に見学に行くことはしないのか。

(事務局)分館長・分館主事全体会において、各分館の活動に市の職員が参加させてもらうよう呼び掛けている。昨年度は、夏祭りを足掛かりに地域に出向きたいと考えていたが、その時期にコロナの感染が拡大し中止になった地域が多かったことなどもあり地域と直接関わることはできていない。

(委員)できれば地域に入り込んでいただきたい。また、どんな活動をしたら良いかと相談に行く際などにご指導いただきたい。公民館大会は分館主事と分館長はどのくらいの方が行くのか。

(事務局)1回に5名程度という状況。

(委員)分館教養学級はどのような活動をしているのか。

(事務局)別紙3に主な学級の例を挙げている。高齢者学級は衰退しており、成人学級、女性学級も平均年齢的に高齢者学級になっている。内容は記載しているが、地域の実情に応じて実施しており、子育てに関することや、交流を深めること、健康づくりを中心としているものもある。

(委員)日吉台区について、以前は3つ~4つの学級があった。高齢者学級はシニアクラブに頼っており、シニアクラブが高齢者学級を開催する状況であったため、高齢者学級を辞めて成人学級をはじめている。成人学級は毎月集い、20~50人程度参加している。女性学級も組長を中心に住民が集まり様々な学級活動を行っている。学級長の責任で情報を得ながら活発に活動している。

(委員)分館教養学級の要件が3つある。自治体の加入率や地域の実態によって、要件を満たすことが難しいから分館教養学級として活動できないということはないのか。

(事務局)ご指摘のとおりである。補助金を交付金に変更した際に要件を明確化した。要件を満たさないため、届け出を出さないところもある。少ない人数で活動されている団体に支援ができていないことが検討課題である。

(委員)活動が活発なところとそうでないところがある。市の交付金だけでは十分でないため、自治会がプラスでお金を出している場合がある。自治会が中心となる地域は分館活動も活発。そういう地域の情報を発信して欲しい。

(3) リーパスプラザこが整備に伴う基本計画策定及び事業可能性調査委託について

[事務局説明]別紙6のとおり

[委員からの意見等]

(委員)令和4年度の実績は公表されているのか。

(事務局)公表していない。

- (委員) サウンディングとは何か。
- (事務局) 行政が事業を発案、組み立てをする際に、民間事業者の意見や提案を直接の対話により組み込む手法である。行政では気づけない民間の知恵を借りて行っていく。
- (委員) サウンディング調査の現地とはどこか。
- (事務局) リーパスプラザこがである。収益を得られる事業ができるのかといったコスト面や、本施設は駅の近くという良い環境にあり、古賀駅東口開発とも連動し、人が回遊できる、人が集う場所になるように検討していきたい。
- (委員) ぜひ検討を進めて欲しい。宗像や新宮など近隣の市町は様々な催しを行っている。古賀は音響環境が乏しいことも理由の一つかもしれない。魅力あるリーパスプラザこがができるよう進めて欲しい。
- (委員) 設備のリニューアルではなく、事業内容のリニューアルなのか。
- (事務局) どちらも対象としている。入口の動線等の設備も対象となる。
- (委員) 個人で借りることができないと認識しているがその点はどうなるのか。
- (事務局) 現在いくつか要件があり、市内在住、又は市内に通勤・通学している人は個人でも利用可能である。社会教育法上の公民館に位置付けられており、営利活動が禁じられている。リニューアルの目玉として市民ホール化があり、興行を実施することができ、習い事等の利用や、大ホール使って、民間事業者が催しものをするなどといった利用が可能になる。
- (委員) 設備、システム、事業内容もリニューアルするということか。
- (事務局) これまで興行をしたことがないため、建物として耐用できるのか、どの設備が足りないのかといったことや、建築から40年経っている施設であるため、バリアフリーは適正かなど専門業者と詳細に計画に組み込んでいく。
- (委員) 調査が終了している状況で、計画策定が7月からとのことだが、乳幼児を抱える子育て世代にとって実際にどんな形で利用したら良いか、どんな場所が良いのかなど、公民館運営審議会の意見を出す場はないのか。
- (事務局) 令和4年度に市民意識調査やワークショップで市民の意見をお聞きしている。当該意見を様々な業種の専門家に見てもらい、足りないものなどの反映をしていく。現状、子育て世代である30代～50代の利用者が少ないという情報はサウンディングのなかでも話している。実際にどこに空間を作るといったところまでは検討にいたっていないが、子育て世代が利用できるような雰囲気を作っていきたい。
- (委員) 本審議会で携わる場面はないという認識で良いか。
- (事務局) 現在意見を取りまとめ中である。意見を追加することは可能なため、何か意見あればご連絡いただきたい。今月(5月)中とし、文書で案内する。
- (委員) 当該ワークショップに参加した。先ほど、つながりひろばの利用数が入っているのかと質問したが、中央公民館の一部に市民活動の支援施設があるということが、一つも記載されていなかったため寂しい気持ちになった。市民活動団体とこれからのありようは密接なつながりがある。概念として子育て世代の意見は反映されていると思うが、実際に子育てをしている現場の意見を反映する取組があれば良いと思う。
- (委員) 今年度に関して、諮問事項はないと理解して良いのか。
- (事務局) 現時点ではない。ご意見等あれば、窓口やメール等で対応したい。

7. その他

- (委員) 青少年育成市民会議の会長をしている。コロナ禍で令和4年度から活動を再開。実績報告を共有する。

8. 閉会のあいさつ

副会長より閉会のあいさつ